

平成22年2月14日

小中連携の授業を実施した時に使用したワークシートに朱書きの補注を入れたものである。補注に書ききれなかったものを箇条書きにする。

継続した指導を実現して、教師と児童のコミュニケーションの充実が大切である。この時に、小学校の先生とTTの形態をとって、サポートをしていただく必要がある。単発の体験的授業ではない。分数の計算、倍と割合で10時間、比例で10時間授業を実施した。

45分間で3枚のワークシートの使用を固定した。教科書の内容に即して、同じ問題を使って指導する。理由は大きく2つある。1つ目は授業評価の問題である。その為に、指導した内容がはっきりと残る形をとった。児童の手元に中学校の先生の授業が形になって残るようにして、今後の小中学校での指導評価に役立てたい。2つ目は、教科書の内容が大変充実しているので、その内容を崩したくなかったからである。今回指導した学校図書の『比例』単元は大変良くできていて各所に感心するところがある。

かけ算の意味を徹底して提示し、比例のことばの式の指導でも(単位量当たりの大きさ)×(いくつ分)=(全部の大きさ)を使う。言語活動での根拠の一つとして、『単位量当たり』は重要である。言葉の限界が思考の限界になるので、思考の鍵になる言葉として『単位量当たり』は大切に指導したい。

小中の指導プログラムの中で、比例の意味の指導は小学校で完了していることを中学校では意識されていない。

小学校で比例の意味の指導が落ちると中学校では十分指導されることがない。また、指導すると時間が不足する。このことを考えると小学校の卒業期に比例の指導が入るのは困難な状況であると思われ、比例単元の年間指導計画上の指導時期は配慮を要する。

中学校での数学指導の形式は小学校6年生で十分通用する、また、深い理解が十分可能である。

入学してくる小学校6年生の生徒指導上の「生の情報」を入手することが可能である。